

平成27年度岡山大学スーパーグローバル大学等事業外部評価委員会実施報告

1. 日時・会場

日時：平成27年6月23日（火）10：30～13：30

会場：学士会館 3F 301（控室310）東京都千代田区神田錦町3-28

2. 外部評価委員（五十音順）

キャロライン・ベントン	国立大学法人筑波大学 副学長・理事
小長 啓一	一般財団法人産業人材研修センター 理事長、島田法律事務所 客員弁護士
(委員長) 近藤 誠一	前文化庁長官、近藤文化・外交研究所 代表、外務省参与
鈴木 典比古	公立大学法人 国際教養大学 理事長・学長
竹本 和彦	国際連合大学サステイナビリティ高等研究所 所長

3. 出席者

評価委員：小長委員、近藤委員、鈴木委員、ベントン委員（書面により意見聴取）

岡山大学：森田学長、谷口理事、阿部理事、許理事、荒木理事、山本理事、門岡理事、松川学長補佐、後藤学長補佐、黒神学長補佐

陪席：大学改革推進室（徳山室長、本城主査、堀川室員、藤井室員）

4. 講評事項 ※→は岡山大学の回答

[数値目標]

- ・平成35年までに至る平成26年度からの数値的なプロセスが挙げられていないため、中間評価に向けプロセス管理を取り入れられてみてはどうか。教職員のダイバーシティや留学生の受け入れを推進するための様々試みを行っていることは分かったが、実績を説明するための数字を十分に明記願いたい。
- 岡山大学はグローバル化に関し遅れているという観点でスタートし、全学的に「横串を入れる」という聖域なき改革を行うことがひとつの大きな柱であった。同時に過大な目標は立てずに確実性をもってやろうということで、全学的な観点で作らせていただいたことがスーパーグローバル大学の認定につながったと思っている。ご指摘いただいた数値目標は実際には把握しており、今後ご説明してゆきたい。数値目標については、10年後を見据え目標数値に対してどうなったかを示すグラフを作成しており、そういうこともやりながら進めて参りたい。

[教育改革]

- ・60分授業とクォーター制は学内のカリキュラム改革や内部改革において非常にエネルギーを要することではないか。
- 教育改革について、60分授業・クォーター制というのは、私どもの教育改革の一丁目一番地で、色々な問題もあるが、大胆かつ積極的に進めようとしている。
- ・実践知とリベラル・アーツではズレがあると思うので、もう少し明確にした方が関係者も納得するのでは。特に社会との互惠性については、相手が企業の場合、利益を得るために即物的になってしまうが、より広く長い目を見て、社会全体にも利益となるような説明をしていただく方が、分かり易いのでは。
- 実践知とリベラル・アーツについて、もう少しきちんと社会に対して解説が必要だと思っており、実際に我々が何を改革しようとしているかをもう少し丁寧に説明させていただきたい。
- ・芸術知について、日本社会では芸術の持つ力は過小評価されているが、実際に芸術をやることで、既成概念や固定観念から脱皮できるという面があり、そこからとんでもない発明や研究が産まれることもある。それぞれの人間力も高まり、グローバル人材にも繋がっていくため、大学で文化や芸術の底力を学ばせるような工夫をしてはどうか。
- 芸術の力については、文化的なことであり、うまく取り込もうと思っている。

[秋季入学]

- ・グローバル化ということに関し、秋入学は避けて通れないのではないかと。国際開放度の一つの尺度としている秋入学制度の準備・導入を進めてほしい。
- 秋入学の必要性については我々も認識しているが、日本で秋入学を実施するには、国の法的制度をもって全国的に、少なくとも国立大学協会全体でやるというような姿勢でなければ無理と思っている。秋入学については、外国から入る留学生や、日本人も含め様々な状況下にある学生たちが入ってくる形で、秋入学の枠を適切などころから徐々に拡大していくことで当面考えている。

[女性の採用等]

- ・女性の採用等については、女性の視野に立って育てるという発想でやっていただければ良いのではないかと。
- 女性の採用等は、非常に大きなハードルでなければ、おそらく達成できないと感じており、積極的に実施したい。

[地域連携]

- ・地元で愛される大学である必要があり、地方創生ということで各市町村もどういった具体的計画を積み上げていくのかを苦慮しており、大学も知恵を与えるということを具体的に考え方がほうが良いのではないかと。「ふるさと納税制度」を活用し、県や市と連携していく必要がある。岡山大学がオンリーワンになるためには、分野や世界の大学にはない強みを伸ばすということ。ひとつが地域との連携で、地方創生という政治的な大きな流れがあり、地元根ざすことが強みになるという観点でやっていただきたい。
- 大学全体としては地元の方々、企業、産業等とのつながりは、現実的にまだまだ弱いと考えており、ぜひ今後もつなげてゆきたい。地域のことについて、ピッツバーグ、ストラスブルク、ポートランドという3つの大学をベンチマークして、地域と大学が協力する体制を、組織的に整備してきた。地域全体と大学とが関係するということで、自治体、企業、岡山大学内の組織を集めて地域発展協議会という形で、地域連携を進めている。